（第２号様式）

令和５年３月 31 日

神奈川県教育委員会教育長　殿

県立相模原弥栄高等学校長

令和４年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価（３月 14 日実施）	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①４学科の新教育課程を適切に進行管理するとともに、各学科策定の教育課程を円滑に推進する。 ②国際科・理数科を引き継ぐ普通科として外国語教育や理数教育を重視した教育を行うとともに、専門学科との融合による生徒の学力向上を図る。 ③外国につながる生徒の支援体制を充実させる。	①指導と評価の一体化や効果的なＩＣＴの利活用と「協働的な学び」とともに「個別最適な学び」を充実させ「授業の最適化」を図る。令和４年度教育課程を改善し、令和５年度の教育課程を編成する。 ②総合的な探究の時間や理数探究基礎、学術研究、表現活動等教育活動全般を通して、STEAM 教育を推進する。 ②普通科において理数教育や外国語教育の充実を図る。 ③外国につながりのある生徒に対する組織的な支援の充実を図る。	①生徒の学習の成果を的確に捉え、授業改善につなげるため、課題・情報の共有と研究を進める。また令和４年度教育課程を実施していく中で検証を行い令和５年度教育課程の改善・充実を図る。 ②全ての教科・科目においてSTEAM教育の視点をもって授業づくりに取り組む。 ②他県の推進校を訪問して、自校の取組に活かすとともに、研究指定校として 10 月頃に公開研究授業を実施する。 ③多文化共生教育推進チームを中心に、全校で情報共有や研修を行うとともに、多文化教育コーディネーターや学習支援員と協力しながら放課後学習教室等の必要な支援を企画・運営する。 ③CEMLA スクール主管校として、運営協議会参加各校と連携しながらスクールの活性化に努める。	①生徒による授業評価の項目１（授業の在り方について）における「４かなり当てはまる」の回答率が 40%以上となったか。 ②各教科・科目の基礎・基本を根底としたうえで、将来の社会生活で役立つ応用力を培う方途の一つとして、学科・教科・科目の枠を越え教科横断的な授業づくりができたか。 ②校内の情報共有を図りSTEAM 教育の研究を推進できたか。 ③多くの教員が放課後学習教室や研修、CEMLA スクールの取組に関わるとともに、校内で外国につながる生徒についての情報共有と積極的な支援が十分にできたか。 ③多文化共生教育推進チームを中心に CEMLA スクールの運営を積極的に行うことができたか。	①２回の調査で 40%以上だった教科は地理歴史、保健体育、芸術のみである。 ①音楽科、美術科の令和５年度以降の教育課程を見直した。 ②STEAM 教育の視点をもって教科横断的・縦断的な授業づくりや４学科のコラボ授業に取り組んだ。その授業を公開研究授業として実施した。 ②経済産業省と放送大学教授による講演会を実施しSTEAM教育への理解を深めた。 ③多くの教員が、CEMLA スクールの取組に関わるとともに校内で人権研修のテーマに在県・帰国生徒に関して取組み、情報共有ができた。 ③多文化共生教育推進チームを中心にCEMLAスクールの運営を積極的に行うことができた。	①２回目の調査では評価４の回答率が多くの項目で減少しているので、原因を分析し、授業改善を図る。また、授業評価の実施方法を見直す。 ①各学科の教育過程の共通化が進んだので、学校として一体感をもって授業を行っていく。 ②来年度は、STEAM 教育に組織的に取り組み、独自に開発した探究活動の手引きを活用して研究を推進したい。 ③多様な生徒に対して効率よく学習支援できるかが課題である。 ③学校全体だけでなく、年次ごとに主体的に対応できるシステムを構築する。	①４学科の教育課程の共通化が図られたことは大きな成果となる改革である。 ③学校の教育活動が新型コロナウイルス感染症による影響前の状況に戻りつつある中、CEMLA スクールの復活は評価できる。	①４学科の教育課程の共通化を進めたことは成果と言える。このことを学科融合の推進につなげる必要がある。 ②STEAM 教育の視点をもった取組ができた。令和５年度は、生徒の探究活動への支援を組織的に取り組む必要がある。 ③CEMLA スクールの取組では４月当初学習者 2 名から、年間で延べ 606 名の学習者となり、ボランティア・スタッフは 542 名が関わることができた。	①学科融合型ホームルームの推進のため、グループ、学科等を中心に組織的な検討を進める。 ②STEAM 教育研究推進校２年目の取組を組織的なものとする。 ②教科横断、探究活動は「総合的な探究の時間」を基幹として全ての教育課程を通して取り組む。 ③外国につながりのある生徒をはじめとした多様な生徒が増える中、多文化共生チームを主体とした組織的な取組とする。
2	生徒指導・ 支援	①特別活動や部活動の一層の活性化めざし、豊かな人間性と社会性の涵養を図る。 ②生徒一人ひとりに対してきめ細やかな支援や指導により、心身の健全な育成をめざす。	①学科を超えた生徒の主体的な特別活動の充実を図るとともに、規律ある部活動を支援する。 ②生徒の安心・安全な学校生活を支援する。また、地域とともにある交通安全教育を推進する。 ②間髪入れぬ教育相談体制の充実を図る。	①生徒の主体的な活動により各行事においては実行委員会を充実させ4学科融合による相乗効果を図る。特に SAGM Synergy（学科別学習発表会）についてはSTEAM教育の柱として学科間の交流を深める行事として確立させる。 ①適切な部活動指導のため、顧問間の連携により計画･運営に努め、生徒の主体的な活動として、実績･成果をあげる。 ②教育相談体制をさらに充実したものとする。 ②交通安全指導の啓蒙活動としてスケアード・ストレイト方式の交通安全教室を実施する。	①WE FES 生徒実行委員会は主体的な活動で文化の部、体育の部の充実を図れたか。また、SAGM Synergy は生徒が主体となって活動し目標に向けた意義ある行事として確立できたか。 ①部活動の運営に顧問間の連携は図れたか。その上で生徒が主体となって部活動の実績･成果はあげられたか。 ②生徒情報を共有するケース会議等を通して組織的な教育相談体制を構築できたか。 ②教育相談担当を中心に、年次・担任、ＳＣ、ＳＳＷ家庭等、緊密な情報共有に努め組織的な教育相談体制の充実を図れたか。 ②スケアード・ストレイト方式の交通安全教室を実施等により交通安全指導における生徒への啓蒙活動となったか。	①生徒実行委員会の活動が活性化したことにより各行事の充実が図られた。 ①生徒が主体となって活動し運動部・文化部ともに活躍し関東、全国大会等で好成績をあげた。また、かながわ部活ドリーム大賞のスポーツ賞・文化賞・各個人賞を受賞した。 ②教育相談担当を中心に、各年次での組織的な支援体制が構築されている。 ②ケース会議を随時開催、情報共有をし、支援の必要な生徒にサポートチームを立ち上げた。 ②交通安全教室、路上での交通指導を実施した。事案等に対して随時注意喚起を促し、交通安全の徹底を図った。	①各生徒実行委員会が行事の企画・運営の細部にわたり、生徒が主体的に行えるよう引き続き支援する。 ①部活動において、普通科生徒の積極的参加を促し、継続して活動実績があげられるよう活性化をめざす。また運営面で安全で計画的な活動を構築するために顧問間の連携を図る。 ②事故・問題行動を等の発生を未然に防止するため積極的な生徒指導を目指す。 ②課題を抱える生徒へより一層の早期対応と予防的な手立て、綿密な情報交換や連携による教育相談体制を構築する。	①部活動では文化部、運動部ともに活躍し成果をあげていることが分かる。 ①部活動における相模原中央支援学校との生徒同士の交流活動についても新型コロナウイルス感染症の影響前の取組を復活させて欲しい。 ②スケアード・ストレイト方式の交通安全教室は実体験が伴うものなので、生徒の安全教育にとって有益である。	①生徒が主体となって生徒会の委員会組織を改編できたことは、自主的な生徒の取組として評価できる。 ①かながわ部活ドリーム大賞のスポーツ賞・文化賞・各個人賞を受賞は、次年度の教育活動の充実に向けて励みになる成果である。 ②生徒の登下校時の自転車マナーには、近隣住民の方からご指摘があり、自転車を含めた交通事故の件数減は喫緊の課題である。	①令和５年度も引き続き生徒の特別活動を支援する。また、学習活動同様に特別活動においても探究的視点をもって活動の充実を図る。 ②令和５年度は相模原地区交通安全高校生・ＰＴＡ大会の担当校として、スケアード・ストレイト方式の交通安全の取組など生徒や保護者の取組を地域に発信しより一層の交通安全教育を推進する。 ②教育相談体制の手順を精査し遅延なく生徒対応に備える。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 31 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月 14 日実施）	成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	①各学科の特色ある教育を基に、生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばし、国公立・難関私立大学への進学をめざす。 ②特に専門学科においては、専門課程にふさわしいキャリア教育により支援していく。	①大学入試改革の動向や上級教育学校の情報収集を踏まえた上で、生徒の進路実現を図る。 ②生徒のキャリアパスポートの活用等により、「総合的な探究の時間」の学習の充実を図り、生徒の分析的で主体的な進路選択を支援する。	①生徒・保護者等にとどまらず、教職員への情報の周知を図る。 ②「総合的な学習の時間」等の中でキャリアパスポートを活用し、さらにSTEAM教育との関係性を明確化する。	①周知の機会をどのように持てたか。また、周知の内容が適切だったか。 ②キャリアパスポートの具体的な利用方法の検証と「総合的な探究の時間」のSTEAM 教育の全体像の中での位置付けが明確化できたか。 ②面接指導、小論文指導、補習等の充実により進路指導の充実が図れたか。	①「進路だより」、保護者対象進路説明会、各年次単位の進路説明会にて、最新の進路情報の周知を図った。 ②「総合的な探究の時間」とSTEAM教育との関係性の明確化はいまだ不十分である。	①周知の機会及び方法は適切であった。ただし、ホームページの活用が不十分であった。 ②「総合的な探究の時間」とSTEAM教育との関係性の検討し整理する。また、キャリアパスポートへの教員の関心を高める必要がある。 ②進路指導の充実については、面接・小論文等の指導は図れたが、補習・講習については十分とは言えなかった。	①生徒の進路実績の伸長を評価したい。進路情報の周知がその一因と考えられる。 ②生徒の進路状況の振り返りは各学科で行われていると考えるので、それをキャリアパスポートに結び付けるとよい。	①生徒の進路実現のための支援に成果が表れた。それが進路実績の伸長となった。 ②キャリアパスポートの具体的な利活用の方法を確立していくことが課題である。	①今後も生徒や保護者に最新の進路情報の周知を図るとともに、きめ細やかな進路支援を行う。 ②STEAM 教育の視点をもった探究活動で用いる本校独自教材にキャリアパスポートの機能を位置付ける。 ②教職員による補習・講習を増やすとともに、英語検定等の外部テストの機会を増やす。
4	地域等との協働	①地域の小・中学校・特別支援学校・大学や教育機関等とより一層の連携を図る。 ②地域との協働的活動を推進し、生徒全体の地域貢献意識の向上を図り、地域に愛され、信頼される学校づくりを行う。	①地域の中で学ぶ生徒の自己有用感を育むために、多くの関係機関と連携するとともに、地域貢献活動を通して地域とともに地域に生きる健全な生徒の育成をめざす。 ②生徒の教育活動の周知のため、学校ホームページ等の広報活動の充実を図る。中学生やその保護者向けに音楽科の広報活動を工夫する。また学校行事等の保護者向けの情報発信の機会を増やす。	①部活動などを通して地域貢献活動を実施する。 ①近隣美術大学等との連携を深め地域に貢献する活動に取り組むことで、自己有用感をはぐくむ。また、 ②生徒の活動や連絡事項をホームページに素早く掲載できる体制を構築することに努め、ホームページを活性化する。	①部活動など通して、近隣の公民館、小学校・中学校・特別支援学校との連携を行うことができたか。 ①近隣美術大学との連携を深められたか。また、地域貢献活動を実施できたか。 ②学校ホームページのタイムリーな記事掲載を実施できたか。保護者や中学生のニーズに応えられるよう学校ホームページを充実できたか。 ②学校説明会や弥栄トリニティの充実により地域・中学生等に対し情報発信できたか。	①弥栄トリニティ等の機会を通じて、近隣の小学校、中学校との連携を行った。また、美術大学との連携事業も実施した。 ②学校ホームページ掲載を素早く行った。説明会等の内容の充実を図るために、情報発信の体制を整えた。 ②学校説明会や部活動体験等の実施により、地域・中学生等に対し情報発信できた。	①部活動を活性化し、近隣の小学校、中学校との連携の強化を図る。美術大学との連携についても経験を積み重ね深化させる。 ②学校ホームページの内容の充実や迅速な掲載に向けて体制を構築する。学校説明会等についても内容を整理し、より良い発信を行う。	①中学校の生徒は弥栄トリニティの取組を大変楽しみにしている。この地域には小学校、中学校、高等学校が隣接している。今後とも３校の連携を深めていきたい。 ②部活動を通した中学生と高校生との交流は、中学生にとっては高校理解につながる貴重な体験と言える。	①弥栄トリニティでは弥栄中学校との連携ができた。今後は他の連携についても検討したい。 ②学校説明会やオープンスクール等の取組に注力した。またコロナ禍による部活動体験が不可能となった代替に秋の中学校訪問を実施した。 中学生の高等学校での体験活動の充実が求められている。	①部活動などを通して近隣との連携の充実を図る。 ②中学生の本校の教育活動での体験を実現する。 ②学校ホームページの充実を図る。
5	学校管理 学校運営	①緊急時に対応できる防災教育・安全教育を学校全体で推進する。 ②効率的な業務の整備により事故・不祥事防止を図る。 ③長時間勤務を是正したワーク・ライフ・バランスの実現を通して教職員自らの人間性や創造性を高め、資質向上に努める。	①教職員と生徒、地域の一体的な防災体制や危機管理マニュアルを整理精選しより良く改善する。 ②業務の進行表に照らして、教科外指導・部活動指導や学校運営の業務を各教職員が管理するとともに、事故・不祥事防止に努める。 ③教職員の働き方改革を推進し、長時間勤務を是正し組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①担当者を中心に、防災マニュアル、危機管理マニュアルを、本校の実情に即したものとなるよう見直す。 ①感染対策も含め、安全性に留意した避難行動がとれるよう、防災訓練の方法を工夫する。 ②昨年度設置した不祥事防止会議の機能をいかして、事故防止研修に取組み、事故・不祥事を未然に防止する。 ③全職員がタイムマネジメントに努め長時間勤務を改善する。	①防災マニュアル、危機管理マニュアルを改訂することができたか。 ①従来の方法に加え、防災や安全に対する意識を高めるような防災訓練を計画・実施することができたか。 ②日常業務に起こり得る業務上の課題に対し、不祥事防止会議を活用して問題解決に向けた建設的な改善策を見出すことができたか。 ③全職員が自らの業務の進行管理に努めるとともに教材の共有化や ICT 活用による業務の効率化等により、長時間勤務を改善できたか。 ③自らの心身のバランスに不安を覚えた際は、管理職や産業医の活用等により早期対応ができたか。	①防災マニュアルを早期に作成・配付することができた。 ①職員対象防災訓練で指摘のあった危険個所について関係部署に注意喚起し、改善を図った。 ②定期的に不祥事防止会議を催して、日常的な事故防止に努めた。 ③勤務時間管理システムを活用し、時間外在校時間が長時間に及ぶ職員には注意喚起を行った。また、業務アシスタントの協力により、事務作業や授業準備を効率的に進めることができた。 ③業務や情報の共有化によって休暇を取得しやすい環境づくりを進めた。	①危機管理マニュアルについては、従来、各グループで作成していたもののうち関係する部分を統合し、早急に改訂する。 ①感染症対策のため生徒対象防災訓練を各教室で実施しているが、実際の避難も含めた効果的な訓練の実施を検討したい。また、地域の防災訓練への参加も、可能な範囲で呼びかける。 ②不祥事防止会議の機能を活かし、不祥事の未然防止、早期発見及び再発防止に努める。 ③産業医との面談や健康診断結果の活用等によって休暇取得を促進する。	①学校管理の観点から自習室などを整え、生徒の学習環境を整備することは有益である。 ②③教職員の働き方改革の取組は不祥事防止につながる。例えば保護者からの欠席連絡等にＩＣＴを利活用することで職員の業務軽減になる。	①校内の教育環境整備の観点からホームルーム教室の無線アクセスポイント整備、自習室の整備などの成果が認められた。無線アクセスポイントの完全整備に向けて今後も取り組む必要がある。 ②③時間外や休日勤務が超過傾向にある教職員の業務軽減をめざす必要がある。	①令和５年度は全ホームルーム教室に加え、未だ設置されていない特別教室の無線アクセスポイントの整備を実現させる。 ①防災の観点から施設・設備の整備を図る。 ②③服務管理、成績処理等不祥事防止会議の機能をいかし事故の未然防止に努める。 ③教職員の時間外や休日勤務が超過しないよう啓発に取り組む。